

身延線西回りが開通



身延線西回り開通式が9月28日、富士駅で斉藤市長、落合静鉄管理局長、中村市議会議員ら関係者約200人が出席して行なわれました。

式は、富士駅午前10時8分発の急行「富士川号」の出発に合わせ、富士川号の運転士、車掌らに花束が贈られたあと、斉藤市長と落合静鉄管理局長がテープを切り、中村市議会議員がクス玉を割り開通を祝いました。

身延線西回り複線化工事は、昭和42年11月に工費15億円（国2億円、市1億5000万円負担）で着工されました。新路線は延長3.6kmで柚木駅が新設され、堅堀駅は移設され、16カ所が立体交差になりました。

なお富士宮駅までの複線化は昭和45年10月開通をめやすに用地交渉、設計などが行なわれています。

【写真は開通を祝い紅白のテープにハサミを入れる斉藤市長と落合静鉄管理局長】

県下のマンモス農協誕生

…今泉など9農協が合併…

今泉農協など市内9農協はさきごろ合併予備契約を行ないましたが、9月27日吉原市民会館で開所式を行ない、新しく「富士市農業協同組合」が誕生しました。農協合併は、体質改善による統合強化をはかるため、さいきん各地で急速にすすめられています。富士市でも、農地の減少、兼業農家の増加などにより、体質改善がさげばれ、昭和42年に農協再編成協議会をつくり、合併方針を協議してきました。このうち、4農協はそれぞれの理由でのぞかれ、9農協がこのほど合併したものです。

合併したのは今泉、伝法、須津、元吉原、大淵、島田、鷹岡、原田、吉原東の9農協。組合員は正組合員7,000人、準組合員3,000人の計1万人で、貯蓄高は約

90億円、販売取り扱い高は5億円の全国第4位、県下第1のマンモス農協になりました。

組合長には山田由太郎さんが、専務理事に望月正己さんがそれぞれ就任しました。なお新しい富士市農業協同組合の本所は当分のあいだ、今泉農協内におかれ、各農協は支所としていままでどおり利用されます。

これからの活動方針は、金融農協では

なく、行政と一体となつた生産組織の育成をはかる、業種別の専門指導を重点にした指導体制の確立、施設園芸などに対する農協施設の強化をはかる、経営を合理化して組合の信用を高めていくことを具体的にあげています。



【県下のマンモス農協になつた富士市農業協同組合の開所式＝吉原市民会館で＝】